

「こんにちは卒業生」特別編



鈴木 久美江 *Suzuki Kumie*

1964年東京オリンピック聖火ランナー



小谷 実可子 *Kotani Mikako*

1988年ソウルオリンピック出場
アーティスティックスイミング
(旧・シンクロナイズドスイミング)



松永 里絵子 *Matsunaga Rieko*

2000年シドニーオリンピック出場
新体操



高橋 侑子 *Takahashi Yuko*

2020年東京オリンピック 強化選手
トライアスロン女子

桐朋女子高等学校の卒業生は、現在二万一千人を超えており、「こんにちは卒業生」のコーナーでは、毎年多彩な卒業生の活躍を紹介してきた。
来年（二〇二〇年）はいよいよオリンピックが日本で、しかも東京で開催される。そこで今号の「こんにちは卒業生」は特別編として、桐朋女子にもオリンピックに縁のある卒業生がいらしたことをご紹介しようと企画した。また、卒業生から現役の桐朋生たちへのメッセージもいただいたので、併せて掲載する。

桐朋教育研究所

こんにちは
卒業生

高橋 侑子 さん (66期)

「2020年東京オリンピック トライアスロン女子強化選手」



高橋さんは、トライアスロンという競技で、現在東京オリンピックの女子強化選手の中でも有力候補となっている。二〇一七年からインターナショナルチームに所属し活動をしている。三月〜一〇月までのシーズンはレースと合宿を繰り返しながら海外を拠点とした生活で、日本に帰国するのはレースがある時。トライアスロンはいろいろな環境で行われるので、アスリートとしても適応能力がないと海外で戦えない。海外に拠点を置くことで、外国の試合という意識ではなく、ホームでの練習の延長と感ぜられるようになり、世界が広がったという。「海外で戦い、経験を積むことが今は力になっている。」と話してくれた。

お父様の影響で物心がついた頃から泳いだり走ったりしていた。中高の陸上競技部では中学三年でトライアスロンを始めてから、週四回は朝六時〜七時半までプールでひと泳ぎしてから登校していたという。放課後は部活をやり、部活のない日はクラブチームで練習をするという生活を高校三年まで続けた。

昨年は、アジア大会で優勝し、さらに全日本でも優勝を果たした。アジア大会が行われたインドネシアは暑く過酷なレースが予想されたが、最大限の力を出し切ることを目標に、良い展開に持ち込んで優勝できた。その二ヵ月後の全日本大会でも優勝できた。全日本大会は六年間思い続けてきた悲願の優勝だった。これでアジアでも日本でも一位になり、今こそ良い流れがきていることを実感している。タイトルを獲れたことは、いろいろな面で大きかった。今後はオリンピックに向けて、どの大会もより気を引き締めていかなければならないと思っている。前回のリオ五輪では選考に納得がいかず悔しい思いをしたので、今回は出場に強い思いをもっている。トライアスロンは二〇代後半〜三〇代前半が選手として良い時期だと言われており、私は東京オリンピックを二九歳というちょうど良い時期に、しかも東京でオリンピックを迎える。自国開催のプレッシャーなどは全て力に変えて自分が思うようなレースができたらいいなと思っている、と意気込みを語ってくれた。

また、トライアスロンで海外に出、いろいろな世界を見ることができ、とても楽しい。食事などに好き嫌いはなく、どんな環境でも対応できるようにしている。これが無いと駄目というものは作らない。それが無かった時にメンタル面でマイナスになるから。世界で戦うには、タフなメンタルをいかに保つかが重要なのだという。

「桐朋は個性を大事にすると言うが、部活でも、授業選択などでも、自分がやりたいと思ったことを口にすればやらせてもらえる学校なので、その環境を大事にしたい。また、自分が打ち込める何かを見つけてほしい。学年では体育祭の実行委員長をずっとつとめてきたが、その経験が今に生きている。桐朋の仲間が後援会を作ってくれた。日本での試合はいつも体育祭のノリで応援に駆けつけてくれるので、有難い。ずっと付き合っているかけがえのない友だちができるので友だちを大事にしてほしい。」東京オリンピックでの高橋さんを応援しましょう。(聞き手 渡邊 千景)